

(代表質問)

質問日	令和8年3月6日(金)		質問方式	分割方式			
質問順位	3	会派名	公明党	議席番号	24	氏名	幸田 恵里子
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 市民生活が反映された予算について	<p>来年度予算は、市長が市民の声をどのように受け止め、市政に反映しようとしているのかが問われる重要な予算である。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 令和8年度の市政運営において、市民生活を守る観点から、今回の当初予算にどのように反映されているのか、市長の見解を伺う。</p> <p>(2) 現在の物価高騰は、特に子育て世帯や高齢者、低所得世帯に大きな影響を与えているが、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した施策について、令和7年度の効果の検証と今後の継続方針をどのように考え、来年度の物価高騰対策に生かしていくのか伺う。</p> <p>(3) 新たに導入した財源配分方式の効果はどうであったのか。その見解を伺う。</p>						中野市長 〃 鈴木財務部長
2 地方創生や地域活性化につながる新たな財源確保の取り組みについて	<p>近年、寄附を活用した地域課題の解決や事業を推進する取り組みが、自治体の新たな財源確保として広がっており、地方創生や地域活性化につながっている。</p> <p>そこで、以下の新規事業について伺う。</p> <p>(1) 企業版ふるさと納税推進事業について、目的と事業内容、メリットを伺う。</p> <p>(2) みんなで応援地域活性化事業について、目的と事業内容、メリットを伺う。</p>						工藤企画調整部長 水谷市民部長
3 寄り添った福祉の実現に向けた事業展開について	<p>高齢者、障がいのある方、子育て世帯、ひとり親、生活困窮者、外国人市民など、本市には多様な立場や背景を持つ市民が暮らしている。制度や支援策が存在していても、「情報が届かない」「相談先が分からない」「声を上げられない」といった理由から、支援につながっていないケースも少なくないと思われる。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 高齢者や障がいのある方の困りごとを把握し、適切な支援機関につなぐことができる見守り体制の強化が必要不可欠であるが、現在の取り組みと課題を伺う。</p> <p>(2) 制度の狭間にいる世帯や複合的な課題を抱える世帯に対しては、重層的支援体制整備事業により部局横断で支援につなぐ仕組みがある。今後、この仕組みをどのように強化していくのか伺う。</p> <p>(3) 今後、医療・介護・福祉の連携をさらに深め、本人や家族が住み慣れた地域で暮らしていくにあたっての支</p>						小松健康福祉部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>4 外国人市民への寄り添った支援と、多文化共生推進の官民連携強化について</p> <p>5 災害時の避難所における女性への配慮について</p>	<p>援を実現するための取り組みを伺う。</p> <p>近年、本市で生活する外国人市民は、国籍・地域だけでなく、滞在年数や来日経緯等も多様化している。そこで、外国人市民の生活実態や課題の把握、外国人市民の課題に寄り添った支援のあり方、地域における多文化共生推進の官民連携モデルについて以下伺う。</p> <p>(1) 外国人市民の抱える課題と実態把握について伺う。</p> <p>(2) 外国人市民の課題に伴走型で寄り添った継続的な支援のあり方について伺う。</p> <p>(3) 地域における多文化共生推進に向けた官民連携モデルとその強化について伺う。</p> <p>災害時の避難所においては、プライバシーの確保や健康面への配慮など、特に女性が不安を抱えやすい環境になることが、過去の災害からも明らかになっている。そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 本市の地域防災計画や避難所運営マニュアルにおいても、女性への配慮が位置付けられていると承知しているが、実効性を伴うための備えや取り組みについて伺う。</p> <p>(2) 女性が相談しやすい環境づくりとして、助産師会との協定による体制整備や、保健師の役割がどこまで具体的に想定されているのか。また、母子専用の避難所の必要性について見解を伺う。</p>	<p>工藤企画調整部長</p> <p>清水危機管理監</p> <p>平野医療担当部長</p>
<p>6 里親制度を取り巻く現状と課題認識について</p>	<p>虐待や養育困難など様々な事情により、家庭での養育が難しいこどもを地域で支える里親制度は、こどもの最善の利益を守る上で極めて重要な役割を果たしている。里親のもとで暮らすこどもが、安心できる環境で養育を受けるためには、里親の確保や里親が安心して養育できるように、里親に対する支援が不可欠である。そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 里親制度の重要性と里親支援の必要性について、市長の考えを伺う。</p> <p>(2) 本市の里親委託率は全国の中でも高い位置にあると聞くが、里親支援において、現在特に課題と認識している点は何か伺う。</p> <p>(3) 里親への相談対応、心理的支援、研修、関係機関との調整など、専門性の高い支援を提供する里親支援センターの設置についての考えを伺う。</p>	<p>中野市長</p> <p>野田こども家庭部長</p> <p>〃</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
7 一時保護されたこどもの保護者の現状と支援について	<p>一時保護は、虐待や保護者の養育困難などの様々な事情により実施されるが、こどもの養育に困難を抱える保護者にとって、こどもと向き合うための大切な「支援の入口」であり、一時保護されたこどもが家庭に戻るためには、保護者に対する支援が大切であると考えます。</p> <p>保護者の中には、孤独感や罪悪感から児童相談所が関わることに拒否感を抱え、十分な支援につながっていないケースもあると感じています。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 一時保護されたこどもの保護者が抱える課題と、こどもの家庭復帰に向けた保護者支援について伺う。</p> <p>(2) こどもが家庭に戻った後の支援や見守りの継続について伺う。</p>	野田こども家庭部長
8 共同親権施行を見据えた自治体の相談対応について	<p>共同親権に関する民法改正により、複数部署にまたがる相談が増えることが想定されるが、本市の対応と周知について、どのようにしていくのか伺う。</p>	野田こども家庭部長
9 障がい者就労支援体制について	<p>障がい者の就労については、国において法定雇用率の引き上げが段階的に進められ、企業に求められる役割は年々大きくなっている。しかしながら、雇用率の達成のみを目的とするのではなく、就労後の定着やキャリア形成まで見据えた支援体制の構築が重要である。</p> <p>そこで、本市における障がい者雇用の現状と課題について、以下伺う。</p> <p>(1) 本市における障がい者の就労と定着に向けた支援の現状と課題、さらに他機関との連携について伺う。</p> <p>(2) 企業側への支援体制として、障がい者の理解や対応などのほか、何かあった時の相談体制について伺う。</p>	北嶋産業部長
10 就労選択支援体制の現状について	<p>「就労選択支援」は、障害者総合支援法に基づく福祉サービスの一つで、障がいのある人が、自分の就労先や働き方について、より良い選択ができるよう創設され、令和7年10月から開始された。</p> <p>具体的には、作業場面を活用した状況把握（アセスメント）などにより、本人の希望、就労能力や適性等にあった選択を支援するものである。</p> <p>そこで、本市の現状について以下伺う。</p> <p>(1) 就労選択支援の利用の流れと課題について伺う。</p> <p>(2) この事業の質の担保に関する取り組み状況について伺う。</p>	小松健康福祉部長